

アカシア夜話 アカシアンナイト
第16話 (科学学級1～3年生の疎開)

広島大学附属高等学校では現在高校Ⅱ・Ⅲ年生にSSH(スーパーサイエンスハイスクール)のクラスを設け、科学を強化した授業、実習を行っています。彼らは科学コンクールなどで成果を上げ、多くは科学の道を志して進学していきます。

実は附属では70年前の戦時下にも、優秀な生徒を募り、科学学級が編成されました。昭和19年、苛烈な大東亜戦争を勝ち抜くため、広島文理大学の三村剛昂教授や京都帝国大学の湯川秀樹教授を中心に優秀な若手科学者の育成が必要であるという論議が高まり、東京、広島、金沢、東京女子の4つの高等師範学校の附属学校に特別教育を実施するよう通牒が発せられました。広島では翌20年1月、他校に先んじて、1期生から3期生で特別科学学級が開始します。科学の力を強化し戦争に勝つために創られた学級でしたが、戦局の悪化に伴い東城に疎開、敗戦後再開されたものの、学校制度の改変により、また、民主主義に反するとの批判の下、わずか2年半、5期生をもって終了することとなります。戦争に翻弄された青春の日々について、植木一盛さん(40回、科学学級3期生)、尾形幸雄さん(40回、同3期生)、戸井良治さん(41回、同4期生)の3名の先輩方にお話を伺いました。

昭和20年1月 科学特別教育学級開校

甲斐：植木さんと尾形さんは、3期生に編入ということですが、そもそもなぜ科学学級を受験されたのですか。



植木一盛氏(40回)

植木：私はね、実は科学学級に入ったから、戦争に行かなくていいと思ったんですよ。私はもともと附中にいたのですが、その頃は、成績が良い者は、中2で幼年学校を受験するのが当然だという雰囲気があったね。軍人になるよりいいかと思いました。**尾形**：私は吉舎の日影館中学(現 広島県立日影館高等学校・三次市吉舎町吉舎)の1年生でした。数学の先生に薦められてダメ元で受験したら受かった。その先生がおられなかったら、全く違った人生だったでしょうね。**戸井**：私は4期生だから、20年の3月に受験しました。

やはり、先生の勧めで。各国民学校から1人だけ、推薦してもらえたのです。

植：広島の科学学級は西日本全体から生徒を募集したから、九州や高松、姫路などから来たのもあって、皆とても優秀でした。しかも、勉強だけじゃなくて、落語なんかでもできる全てにおいて優秀な人が多かった。

岡田：入学試験もユニークだったようですね。**尾**：よくみんなが覚えているのは、三村剛昂先生が出題された「もし神様が人間にもう一つ目を下さるとしたら、君はその目をどこにつけるか」というものですね。知識というより、発想力を問われていたような。後は、その場で実験をさせられたかなあ。

宮井：授業は理科中心ですよ。**戸**：いや、漢文や古文もあったし、戦時中でも英語がしっかりあった。**宮**：英語教育は附属の特徴ですね。**戸**：外国帰りの先生の英語もありました。文系科目も理科もだから、毎日8時限くらいまでみっちり授業がありましたね。

甲：ところで正規学級の方との関係はいかがでしたか。**尾**：科学学級は動員が免除されていて、ずっと授業を受けています。正規学級は一日勤労奉仕して帰ってくる。面白いはずはないでしょう。私は専心寮にいましたが、寮で科学学級生と正規学級生が会うとどうしても気まずい。**植**：僕はもともと附中だし、自宅生だったから、あまり感じなかったけど。**尾**：よそから来た科学学級生は、特に風当たりが強かったね。**甲**：戸井さんは、中学1年の最初からの科学学級なので、正規学級との軋轢はなかったのではないですか。**戸**：いや、ありましたよ。でも、上級生ほどではなかったでしょうね。

昭和20年7月 東城へ疎開

戸：東城では2期生から4期生が、法恩寺(真言宗御室派・庄原市東城町川西)と東城幼稚園に分宿しました。授業は東城高等女学校(現 広島県立東城高等学校・庄原市東城町川西)でありました。女学校の生徒は動員に出て、留守でしたからね。東城では科学学級の生徒ばかりで、いじめがなくなってよかったです。**植**：でも、ダニと虱に苦しめられたねえ。全部脱いで川で泳いで、その間に服を煮沸消毒してもらいました。**尾**：私は幼稚園組でしたが、食糧不足で毎日すきっ腹を抱えての生活でした。主食がいつしか満洲産の大豆になり、それに赤い高粱(コウリヤン)が混じるようになった。これが慢性下痢を呼び、食事の後は便所に行列ができる有り様でした。生物の実験で

略歴

植木一盛(40回)

京都大学法学部卒
第一勲銀 その後植木衣料店

尾形(田利)幸雄(40回)

S24旧制広島高等学校1年終了、学制改革で広島大学へ
S28広島大学政経学部卒業、中国新聞社入社 S57取締役編集局長
H4専務取締役 H8顧問就任

戸井良治(41回)

広島大学工学部、上智大学卒
広島学院高等学校教諭

尾形幸雄氏(40回)

カエルを解剖したときは、その足を動物性蛋白質の足しに焼いて食べましたが、とても美味しかったですね。蛇を食った話も、別に驚きませんでしたね。**植**：100人近い生徒を食べさせないかんから、先生も苦労されていました。食糧を得るため、近くの農家に手伝いに行くこともあったね。あと、薪運び。急な傾斜のお寺の参道を往復するのは辛かったですね。でも、報恩寺には橋岡信一先生ご夫婦が一緒に住まれ、本当によくしていただきました。**尾**：東城での生活はたった40日でしたが、とても印象深いものでした。

昭和20年8月

甲：そして、8月6日を迎えるわけですね。**尾**：その日の夕方には、広島が壊滅したらしいと伝わってきました。その様子を聞いて、優秀な2期生(39回)の江上種一さんが、すぐにこれは原子爆弾だと言ったそうです。広島が家族が亡くなったとの情報も伝わってきて、夜の闇にすすり泣きやみませんでした。翌7日には広島から鳥取に帰る途中の1期生(38回)が東城に立ち寄り、附属の被爆の状況と加藤恭三さん(38回)の死を知らせました。1期生ではもう一人、光明幹郎さん(38回)が重傷を負い、避難先で亡くなっています。**岡**：1期生だけは広島で授業を続けておられたのですね。**植**：僕のいたお寺には2日ほどして、数学の船越順三先生がいらして、母が爆死したことを知らせてくれました。悲しくて、ひどく泣きました。東城まで広島から芸備線で8時間。遠く離れた場所で母や



戸井 良治氏(41回)

家族を思い、辛くてたまらなかつたが、とにかく私たちは東城におつたから命が助かつたのです。

尾：終戦になり、帰る所があるものは帰ることになりました。帰る前に、科学学級の資料をすべて燃やしました。私たちは科学戦に勝つために教育を受けていたのだから、アメリカが来たら殺されると、本気で心配していました。どこへ逃げようかと…。あの高田平八郎先生は「鬼畜米英と最後まで戦おう！」と訓示されていたほどですから。

甲：僕の知っている高田先生とはずいぶん違いますね。尾：先生方も180度転換を迫られたからねえ。

昭和20年9月 学校再開

甲：学校の再開は9月ですね。尾：賀茂郡原村(東広島市八本松町字原)の旧陸軍の兵舎に集まれ、との連絡がきました。でも集まったのは少なかつたですね。広島以外からの生徒は元の中学に帰った人も多いです。植：僕は9月に原村に集まれとは聞いていません。自宅が被災したからかなあ。翌年4月から原村へ通いました。尾：そういう人もおるね。とにかく混乱と食糧不足で勉強どころじゃなかつた。原村で辛かつたのは、夜中にたたき起こされて暴行を受けたこと。上級生には兵隊帰りもいたし、科学学級は特にひどくやられました。戸：それに兵舎は風が吹き抜けて寒かつたね。尾：そうそう。すぐ近くの旧陸軍の演習場で米軍が八本松の弾薬庫から火薬を運んできては焼却処理をしていました。その弾薬の木箱をもらってきて燃やし、寒さをしのいでいました。時には棒状の火薬をこっそり失敬し、炉にくべました。それがあつた晩、はせてH君の布団に飛び火し大騒ぎになりました。ところが当

のH君高いびき。起こされて「あっ、足が黄色くなつている！」とつぶやいたのには、みんな大笑いでした。

甲：その後、吉土実国民学校(現 東広島市立西条小学校)、広島高師国民学校(附属小学校)を経て、昭和22年2月に新校舎に移られていますね。植：それまでは、土の上に屋根だけがあるような校舎だつたから、新校舎は嬉しかつたです。やっとまともな授業を受けられるようになりました。戦争は終わつても、科学学級としての授業を続けてもらいました。高師や文理大の先生の専門の話があつて、とても難しかつたです。

甲：進学はどうでしたか。あまり芳しくなかつたように言われていますが。尾：それは全く誤解です。例えば私たち3期生は戦後21人附属に残つたけれど、そのうち16人は四修(4年修了)で旧制高校に合格しています。普通は五修(5年修了)で受験する難関でしたが…。京都の三高に合格した人もいるし、旧制の広島高校なんか附属出身者がいっぱいでした。植：私は合格せんかつた5人のうちの一人だけど、新制の附属高校II年生になって、その後京都大学に進学しました。尾：新制の学校制度への移行期で、実績が分かりにくくなつているだけです。ある全国紙が科学学級は失敗に終わったように書いたけれど、そんなことはない。私たちは素晴らしい教育を受けたし、戦後の日本を支えた人材を多く輩出しています。私のように文転した者もいますが、学んだことは、大いに役立っています。

附属の創立110周年記念誌に越智光夫広島大学学長は「附属中・高校の歴史の中でも特筆されるのは、戦時下で優秀な技術者を育成することを目的に『科学学級』が設置されたこと」と述べられ、また古賀一博前校長は「理数学教育」をわが国の「不易の課題」とされ「特別科学学級が設置された本校が現在全国のSSH拠点校の一つとして活動していることを考えると誠に感慨深い」とその伝統を強調されています。科学学級はスーパーサイエンスハイス

クール(SSSH)にしっかり引き継がれているのです。

編集を終えて

戦争に翻弄され、戦後は民主主義の流れに押しつぶされるように廃止になった科学学級ですが、当の少年たちは、今の中学生と変わらず、笑い、悲しみ、傷つき、多感な日々を過ごしていたのだということを感じました。先輩方のお話は面白く、70年前にタイムスリップしたようで。素晴らしい仲間と濃い中学生生活を送られたのだな、と。

今、再び力を入れられている理科教育ですが、純粋に人の幸せのために進められて欲しいと改めて思います。そして、現役の中・高生はもちろん、私たちも落ち着いた環境で勉強出来る事に今一度感謝し、世の中の平和のために精進していくことが出来ればと思います。それが先輩方の大変な経験に基づくお言葉を、これからの世に生かしていく我々の使命だと感じました。

なお、今回お話をお聞きするにあたり、広島在住の2期生(39回生)にも声をおかけしましたが、健康上の理由で辞退されるなどのため、2期生の参加を頂けませんでした。

編集：岡田 美香(76回)

編集：宮井 ふみ子(76回)

文責：甲斐 稔(63回)



前列、左から尾形さん、植木さん、宮井、岡田
後列、戸井さん

「創立五十年記念誌」を探しています

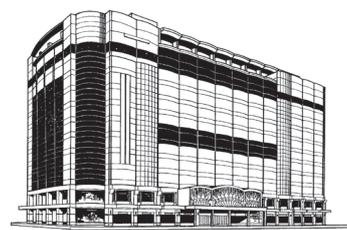
昭和30年(1955年)母校創立50周年を記念して発行された「創立五十年記念誌」を、アカシア会にご寄附いただける方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。



福屋八丁堀本店

Faithful & Friendly
皆様の百貨店、福屋。

Fukuya



福屋広島駅前店